

介護は国の責任で 介護労働者の組織化こそ改善の力



訪問先で対話する行動参加者ら



発行責任者
勝見 忍
山形市薬師町2-6-15
TEL 023(615)2172
FAX 023(615)2173
URL: <http://www.yamagataroren.com/>
Email: yamagataroren@yahoo.co.jp

つながり求め事業所訪問

「介護職の養成学校も定員割れ。一昔前と様変わりですね」。「処遇改善交付金や加算も対象外職種の人は大変」。「少人数で利用者の生活に合わせると自分たちの食事が不規則に」など、初対面の玄関先でも苦労話で対話が深まります。

五月二二〜二三日、山形地域労連、福保山形地本、自治労連山形県事務所と県労連の7人は、全労連の宮垣忠オルグの支援も受

け、山形県の介護をよくする会の調査員として山形駅西地域の介護事業所29か所の訪問・対話行動を敢行。事業所アンケートを呼びかけ、新たな協力約束も10か所近く取り付けました。

全労連の組織拡大最重点計画のひとつに選ばれた介護事業所総がかり作戦の一環。新たなつながりと矛盾の可視化、事業所間交流と「介護に国庫負担増を」の世論高揚をめざし、当面、今年一二月まで諸行動が展開されます。

作戦も知恵集め綿密に

組織拡大調整会議重ねる

県労連は1〜5月に4回、山形市で介護労働者を組織対象とする前出3加盟組織を中心に組織拡大調整会議を繰り返し、介護事業所総がかり作戦を具体化しています。

140法人、22介護保険対



地図や資料を広げ打合せをする訪問行動参加者ら

象業種、44事業所を把握。アンケート用紙等の発送作業も行い、5〜6月の第一次訪問行動の対象62か所を選定。学習やアンケート結果等から対話ポイントも検討しました。

「介護力」基準でサービスを

介護施設の種類の種類と特徴を学習

二月二二日の組織拡大調整会議で県労連は、介護事業所訪問で対話の力にと、特別養護老人ホームこぶし荘の濱田友美施設長を講師に学習会を行いました。

介護保険・介護制度について濱田氏は、家族の同居や仕事、

地域の状況等を含めた「介護力」(介護を提供する利用者の周囲の力)もサービス選択基準にされて然るべきだと力説。

要介護度など利用者本人の属性だけで判断しようとする国や自治体の傾向を批判しつつ、要介護度が3に満たない人も特老(特別養護老人ホーム)に入居できる、と事例を紹介しました。



濱田さん

介護事業所アンケート集約・集計進む

山形県の介護をよくする会は二〇一六年八月以降順次、北村山、鶴岡市、南陽市(以下「北鶴南」)で、今年四月以降は山形市でも、介護保険・介護制度に関する介護事業所アンケートに取り組みんでいます。

職員充足度について、北鶴南で回答した68事業所中28事業所(41.2%)が「不足」、うち6事業所が「大不足」と回答。理由として「労働がきつい」13、「低賃金」12、「夜勤・時間差勤務が多い」10と、合計で半数以上が賃金・労働条件を挙げています。

「国の配置基準でなく本当に必要と考える人数に対する充足度」をと質問趣旨を補強した山形市では、五月二四日までに回答した12事業所中9事業所が「不足」と回答し、7事業所が低賃金を理由に挙げています。報酬単価減少による経営難や利用者の食生活・入浴機会などの面で自治体の総合事業に懸念を示す声も多く寄せられました。

人手不足の背景に低賃金構造

国民大運動 実行委員会

子どもも貧困なくして 実態調査ふまえ県に要請

県労連などで行く国民大運動実行委員会は五月一日、昨年実施した子どもの貧困実態調査をふまえ、吉村美栄子知事宛の「子どもの貧困解消を求める要請」を行いました。

県労連の勝見忍議長、佐藤完治事務局長ら8名が県議会棟を訪れ、勝見議長が県・子育て支援課の佐藤勇課長に要請書を手渡ししました。

県労連・春闘共闘は昨年、教職員組合や学童保育労組の組合員などに、子どもの貧困の実態調査の協力を要請し、経済的理由から学校生活が困難になったり、親の就労状況や健康状態等によって、生活状態が悪化したりしている実態を集約しました(別掲)。

県は、六月にも未就学児、児童・生徒、保護者を対象とした実態調査を行い、来年度の施策に反映することや子ども食堂のネットワーク構築や開設・運営の手引書の作成を計画していると説明しました。



県に要請する国民大運動実行委員会の参加者

こうした調査結果をふまえ、▼実態調査を的確かつ十分な体制をもってすすめること▼「子ども食堂」など子どもの居場所づくりに取り組む団体に対する支援の強化・拡充▼就学援助制度の支給サイクルや支給時期の見直し▼放課後児童クラブへの支援・助成の拡充▼無料低額診療事業の要件緩和と実施医療機関の周知▼生活保護改善に関する国への要望など8項目を要請しました。

市民と野党の共闘さらに 国民大運動実行委員会 舟山やすえ参議院議員 国会報告会

< 実態調査から >

- **弁当はパン・・・**
準生活保護世帯で介護サービス用送迎タクシードライバーの母(シングルマザー)
学童保育に6年間在在した双子の兄弟と姉=「弁当はパン、カップヌードルが主。母親のためにおやつを残し、『お母さんにあげる』といって持ち帰る。いつもお金のことを気にしている様子で、お誕生日にプレゼントを買ってもらえず、自分の貯金で買った。お金がないせいで、中学校では希望の部活をあきらめた」
- **水泳、スキーに参加できない**
小学生=「子どもの病気を理由にして、水泳授業やスキー教室に参加できないと言う。確かに病気もあるのだが、実際には経済的に、水泳道具やスキーセットを買えない。入学準備金を入学式当日まで準備できない」
- **風呂に入れない**
小学6年生男子、一時期、両親ともに無職の世帯=「体にあった靴や服を買ってもらえず、きつい靴をはき、小さい服を着ていた。風呂にはなかなか入れてもらえない」
- **住宅失い、車で**
小学校3年生、両親とも就労が不安定な世帯=「一時、住居を失い、自家用車で過ごしたこともある。登校も困難な状況にあり、学校と福祉課が連携して、生活保護などの支援情報を保護者に知らせ、協議して改善した」

安倍政権おかしいと声あげること必要

県労連などで行く国民大運動実行委員会は5月12日、山形市ビッグウイングで舟山やすえ参議院議員を招いて「国会報告&懇談会」を開きました。八団体から一六人が参加し、舟山議員の報告をうけて懇談しました。県労連からは勝見議長、荻原圭子、佐藤忠志、東海林良二各副議長と佐藤完治事務局長が参加しました。

舟山氏は、「二〇一六年参院選の野党共闘は全国でもうまくいった県で、今後も共闘していきたい。自民党政治の下で暮らしが脅かされている」と投票行動の乖離を埋めたい。保守を含めた多くの人の受け皿をどうつくるかが課題」だとし、安倍政権における相次ぐ不祥事に「保守や革新の枠を超え、おかしいと声をあげていくことが必要だ」と強調しました。

懇談では、各団体の参加者から、国民皆保険、消費税増税、最低賃金、種子法、犯罪とメディア、教育、治安維持法犠牲者への賠償、憲法、立憲主義など多くの分野から意見が語られ、

舟山議員との交流を深めました。



国会報告を行う舟山やすえ参議院議員